

〔茶窓閒話<sup>上</sup>〕利休料簡にて、臺子の茶湯二袋を一袋になし、又茶入の袋の長緒をも短くし、出蜻蛉入蜻蛉などいふ緒の結び方、古法の秘傳なりしをも、出蜻蛉ばかりに結びし事など皆改ぬ、但し茶入の袋にまちをあげし事は、利休が後妻宗恩手利にて、茶入の袋をぬひしがはじめてまちを明し、

〔備前老人物語〕織田宗二老花鳥の懸物の時は、茶入の袋のとんぼうの羽を、懸物のかたへむかはしめてよしといはれし、つねはとんぼうの羽を我前へむかふやうにする也、これ利休の語られしところと見えたり、

〔茶之湯六宗匠傳記<sup>五</sup>〕小堀遠江守宗甫公自筆の寫

一茶入を長緒にする事は、大海、内海、茄子、尻脹、丸壺、是等の類たるべし、

一長緒のむすびは、上輪、へたむすび、櫻、かたばみ、桔梗、加様の類たるべし、<sup>○下</sup>

〔茶道筌蹄<sup>四</sup>〕同<sup>○</sup>茶塗物の茶器

老松割蓋 妙喜庵の老松を以て、原叟數五十を造る、<sup>○中</sup>此茶器に長緒能取合へども、割蓋あし

らひの上、又長緒あしらひ如何とて、袋出來せざる内、帛紗包みにして用ひられしよし、後北野天満宮へ一七日參詣して、鬮を取て長緒に定められしよし也、覺々齋まで長緒中絶してありしが、千家にて長緒を用ゆる事は、此茶器より始なり、

〔槐記〕享保十二年四月三日、參候、午後ヨリ左典廐ガ宅へ茶ニ御成、<sup>○近衛</sup>即チ御供、<sup>○中</sup>茶入、瀨

戸ノ中古金華山ノ手領<sup>先年拜</sup>物、袋<sup>廣東ノヨシ、地白ニテ、アヤ地ノヤウニモヤウアリ、珍キカントフ</sup>キ金ノ筋アリテ、其中ニカラクサノモヤウアリ、

<sup>トナリ、</sup>  
<sup>○中略</sup>

仰ニ、此袋ニ付テハ咄アリ、先年此袋ノ切渡リテ、幅ニテ四五尺アリシヲ、三菩提院殿<sup>○貞敏</sup>法親王トニツニ分テ取シガ、此筋ハ七八寸ホド間ヲ置テ、四筋カナラデハ無リシガ、此茶入ヲ求テ、幸ニ常修